

令和6年度 第2回ボートパーク指定管理者選考委員会 議事録

- 1 日 時 令和6年10月8日（火）13時30分から15時30分まで
- 2 場 所 横須賀市役所3号館3階302会議室
- 3 出席委員 近藤委員長、工藤委員、石田委員、板戸委員、高橋委員
- 4 事務局 港湾部港湾管理課 大坪係長、佐々木
- 5 傍聴者 4名
- 6 議事内容

ボートパーク指定管理者申請団体である「Maris&KMBP 共同事業体（公益財団法人マリンスポーツ財団及び有限会社協立マリンで組織）」による事業計画書及び関係書類に基づいたプレゼンテーションを実施し、その後、委員からの質疑応答を行った。

質疑応答の概要は以下のとおり。

<団体の質疑応答>

（委 員） 現在、マイクロプラスチック回収のためのシービンを設置稼働しているが、回収後の分析は行っているのか。分析の結果は学会で発表はしているか。

（団 体） 回収物を2カ月に1度、武蔵野大学へ送っている。まだ学会での発表はないが、結果報告は届いている。

（委 員） 定期点検を行う中で補修につながるケースがあるか。

（団 体） 定期点検で補修が必要な箇所が出てきた場合は市と相談して補修を行っており、また、不具合が発生しそうな箇所を発見したときも市と相談して補修するようにしている。

（委 員） 施設管理について、深浦ボートパークの手すり柵に落下防止用ネットを設置すると記載してあるが具体的にはどのような内容か。

（団 体） 落下防止用ネットの仕様についてはこれから具体的に決めていくが、子供の身長などを考慮して検討していく。

（委 員） （供用時間前の）早朝の出港について、注意や指導をしていると思うが、実際に早朝に出港する人はいるのか。

（団 体） 常時供用時間は表示し係留者にお伝えしてはいるものの、確認せずに出港してしまう人が時々いる。見かけた際は注意するようにしている。

（委 員） 海の駅としての一時係留の利用率について、毎年20%の増加という目標を立てているが、実際の利用率はどのくらいか。

（団 体） 実績として2023年が30隻、2022年が26隻、2021年が14隻という状況。トイレ休憩などで短時間の利用は使用許可手続不要としていた時期があり利用数が増え

ていたが、管理の都合もあり必ず手続をしてもらうことにしたため、その分の利用は減る可能性がある。

(委 員) 現在は（短時間利用も）有料か。

(団 体) すべて有料となっている。

(委 員) 体験クルーズなど、イベントの開催の周知はどの様に行っているか。

(団 体) ホームページに掲出と管理事務所にポスターを掲示して周知している。

(委 員) 係留率は100%となっているが、船の入替えはあるか。空きを待っている人はいるか。

(団 体) 年間6隻程度の入替えがある。空いたところはすぐに募集をかけて、抽選で使用者を決定している。以前は空きを待っている人が多くいたが、今は多くはない。

(委 員) 浦賀の再開発について、これから具体的に話が進んでいくが、協力はしていただけるか。

(団 体) はい、浦賀の再開発の話し合いも含めて、地域の活性化に向けて協力していきたい。

(委 員) 個人情報の管理について、情報の流出を防ぐための対策の提案の中で、インターネットに接続されたパソコンに触れる職員は何名か。また、そのパスワードは全員が知っているか。パソコン本体の盗難防止策はあるか。

(団 体) 各事務所に1台ずつインターネットに接続されたパソコンがあり、起動するためのパスワードは全員が知っている。パソコン本体の盗難防止については、セキュリティワイヤーでの盗難防止は行っていないが、事務所に鍵をかけることで盗難防止に努めている。

(委 員) 紙での個人情報の保管については、規程には記載されているか。個人情報の保護管理者は部長と記載されており、現場には常駐していないと思うが管理機能はどのようなになっているか。

(団 体) 紙での個人情報については鍵が掛かる棚に保管しており、規程にも記載されている。個人情報の保護管理者である部長は本部に常駐しているが、所長と連携をとりつつ従業員に対する研修を行うなど、仕組みづくりも行っている。

(委 員) 緊急時の連絡体制はすべて電話か。アプリを使つての緊急連絡の対応はしているか。

(団 体) 基本的には電話での連絡体制となっており、緊急時に特化したアプリの使用はない。

(委 員) ワークライフバランスについて、現在の有給取得率か時間外の平均が分かれば教えていただきたい。

(団 体) 何日という具体的な数字は算出していないが、積極的に取得するよう案内をしている。

(委 員) 地元小学校との連携の提案について、マイクロプラスチックの回収装置を活用したワークショップについて具体的に教えていただきたい。

(団 体) 市内の小学校の２年生から３年生を対象とした海洋環境のワークショップを行っており、学校授業で集めたゴミの分別や、シービンから回収したゴミからマイクロプラスチックを抽出する授業に協力している。

(委 員) B A Nについて、加入率が分かれば教えていただきたい。協立マリンがレスキューステーションとして登録してあるが、深浦ボートパークあるいは浦賀ボートパークがレスキューステーションとして登録する考えはあるか。レスキュー艇として使用できる船はあるか。

(団 体) 加入・非加入の情報については個人情報のため、収集していない。レスキューステーションとしての登録について、ボートパークの近場から連絡があれば助けに行くことはあるが、作業艇で出来ることに限りがあるため、B A Nのレスキューステーションとして対応する予定はない。

(委 員) 係留率は１００％であるが、稼働率を教えていただきたい。

(団 体) 出港届と入港届について、制度上は強制ではなく現状は任意で出していただいているため、稼働率は算出していない。

(委 員) 事故がないようにすることを考えたら、出港届と入港届を出してもらうのが望ましい。浦賀水道は交通量が多いため、事故があった時には市も責任を負う場合があることを鑑み、出港を把握する方法を考えていただきたい。

(委 員) リスクへの対応について、津波が予想されるときに係留者から船を出港させたいと申し出があった時の取り決めはあるか。

(団 体) そのような場合の取り決めは今のところない。

(委 員) 収支予算書の中では係留率１００％を維持したことを想定しているが、プレジャーボート人口が減る見込みはあるか。空きバースの募集をする際に、新規の利用者を集める手法があれば教えてほしい。

(団 体) プレジャーボート人口が減るという見込みは今のところない。ホームページで募集し、現地を見ていただくようにしている。

- (委 員) 地場産業への協力ということについて、横須賀が海藻の産地という話を聞いたが、団体として地場産業に協力していることがあれば教えていただきたい。
- (団 体) 深浦ボートパークでは、漁協が収穫したわかめをクーラーボックスに入れて持参するので、無人販売できる場所として広場を提供している。